

## <投与開始前>

投与前に「禁忌」、「慎重投与」をご確認ください。

**トホルミン** 塩酸塩錠 250mgMT/TEJ  
500mgMT/TEJ

チェック日 ( 年 月 日 )

### 【禁忌チェック】

チェック項目	禁忌
乳酸アシドーシスの既往	<input type="checkbox"/> あり
腎機能障害	<input type="checkbox"/> 重度又は中等度
透析(腹膜透析を含む)	<input type="checkbox"/> あり
肝機能障害	<input type="checkbox"/> 重度
ショック、心不全、心筋梗塞、肺塞栓等心血管系、肺機能に高度の障害、その他の低酸素血症を伴いやすい状態	<input type="checkbox"/> あり
過度のアルコール摂取	<input type="checkbox"/> あり
脱水症、脱水状態が懸念される下痢、嘔吐等の胃腸障害	<input type="checkbox"/> あり
重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病	<input type="checkbox"/> あり
重症感染症、手術前後、重篤な外傷	<input type="checkbox"/> あり
栄養不良状態、飢餓状態、衰弱状態	<input type="checkbox"/> あり
脳下垂体機能不全、副腎機能不全	<input type="checkbox"/> あり
妊婦又は妊娠している可能性	<input type="checkbox"/> あり
本剤の成分又はピグアナイド系薬剤に対し過敏症の既往歴	<input type="checkbox"/> あり

### 【慎重投与チェック】

チェック項目	慎重投与
不規則な食事摂取、食事摂取量の不足	<input type="checkbox"/> あり
激しい筋肉運動	<input type="checkbox"/> あり
軽度の腎機能障害	<input type="checkbox"/> あり
肝機能障害	<input type="checkbox"/> 軽度～中等度
感染症	<input type="checkbox"/> あり
高齢者	<input type="checkbox"/> あり
ヨード造影剤	<input type="checkbox"/> 併用あり
腎毒性の強い抗生物質	<input type="checkbox"/> 併用あり
利尿作用を有する薬剤(利尿剤、SGLT2阻害剤等)	<input type="checkbox"/> 併用あり
他の糖尿病用薬を投与中の患者	<input type="checkbox"/> あり

## <投与中>

次の状態では、乳酸アシドーシスを起こしやすいため、投与継続/中止/休薬の判断、投与量の調節を行ってください。

腎機能 (定期的に検査を実施)	<input type="checkbox"/> 臨床検査値の異常(eGFR、血清クレアチニン値等) <input type="checkbox"/> 腎機能を悪化させる要因(ヨード造影剤の使用、腎毒性の強い抗生物質の併用等)
肝機能 心肺機能	<input type="checkbox"/> 臨床検査値の異常 <input type="checkbox"/> 低酸素血症を伴いやすい状態(心肺機能)
患者さんの状態等	<input type="checkbox"/> 過度のアルコール摂取 <input type="checkbox"/> 脱水所見 <input type="checkbox"/> シックデイ(下痢・嘔吐・発熱等) <input type="checkbox"/> 食事・水分摂取不良 <input type="checkbox"/> 手術



2015年11月作成  
XNA501.V



(折り方)  
1.①を山折りにしてください。  
2.②→③を山折りにしてください。  
3.この表紙面をカルテ等にのり付けしていただくことも可能です。

### 投与時チェックシート

**トホルミン** 塩酸塩錠 250mgMT/TEJ  
500mgMT/TEJ

①

**乳酸アシドーシス**(血中乳酸値の上昇、乳酸/ピルビン酸比の上昇、血液pHの低下等)  
予後不良のことが多い。一般的に発現する臨床症状は様々であるが、胃腸症状、倦怠感、筋肉痛、過呼吸等の症状がみられることが多い。これらの症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、必要な検査を行うこと。なお、乳酸アシドーシスの疑いがある場合には、乳酸の測定結果を待つことなく適切な処置を行うこと。  
<対処法>アシドーシスの補正(炭酸水素ナトリウム静注等)、輸液(強制利尿)、血液透析等の適切な処置を行うこと。

定期的には、特に慎重な経過観察が必要な場合には、より頻回に腎機能や肝機能を確認する等慎重にご使用ください。腎機能や脱水症、中等度以上の状態に十分注意して投与の中止や減量を検討ください。特に75歳以上の高齢者ではより慎重に判断してください。

### 【高齢者への投与】

②

**トホルミン** 塩酸塩錠 250mgMT/TEJ  
500mgMT/TEJ

腎機能:投与前の血清クレアチニン値  
(酵素法)  
成人男性:1.3mg/dL以上  
成人女性:1.2mg/dL以上  
小児:1.0mg/dL超

肝機能:投与前のAST(GOT)又はALT(GPT)  
成人:基準値上限の2.5倍以上  
小児:基準値上限の3倍以上  
脂肪肝合併症では、基準値上限の5倍以上

成人:肝硬変

血液検査や尿検査のほか、患者背景、自他病状等も考慮し、投与継続/中止/休薬を判断してください。(参考:他のトホルミン塩酸塩錠の国内臨床試験における除外基準)

### 【禁忌、投与継続/中止/休薬の判断の目安】